

(仮称) いわき市スポーツ推進計画 第1～3章の基本フレーム (計画の方向性)

第1章 計画の策定にあたって

<p>計画策定の背景 スポーツが地域課題の解決に果たす役割がより大きくなる中、市民の誰もが「する」「みる」「ささえる」スポーツに参加する施策を他分野と連携・協力しつつ体系的・計画的に推進することにより、本市のスポーツによるまちづくりや地域活性化を促進するため、本計画を策定する。</p>	<p>計画の位置づけ ○スポーツ基本法に基づく、スポーツ振興に関する計画 ○「いわき創生総合戦略」に基づくスポーツ部門の計画</p>	<p>計画期間 令和3年度から令和12年度までの10年間 (5年後に社会情勢や計画の進捗状況等のギャップを確認しローリングする)</p>
---	---	---

第2章 本市のスポーツを取り巻く現状と課題

社会情勢の変化等	本市のスポーツの現状	本市のスポーツを取り巻く課題
<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少、少子・高齢化に伴い地域活力の低下や財政状況の厳しさが増す中、多様な人が活躍する社会の実現への期待の高まり ○医療費が増加する中、健康増進や健康寿命の延伸に効果をもたらす運動・スポーツへの期待の高まり ○東日本大震災・原子力災害からの復興、地域活性化におけるスポーツツーリズムへの期待の高まり ○ライフスタイルの多様化、ICTの進展、地域コミュニティの弱体化など市民生活の変化の中でのスポーツ振興への期待 ○エクストリームスポーツなど多様で新しいスポーツ種目の増加 ○社会資本の高度成長期以降の集中整備に伴う老朽化施設の急速な増加と維持管理・更新費の増加に対する計画的な対応 ○新型コロナウイルス感染症に伴うスポーツ活動の変化 	<p>人口動態、市民のスポーツ活動の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人口減少とそれにより広い市域に薄く分散する人口と、少子・高齢化がもたらすスポーツ振興への影響 ○成人の運動・スポーツの実施率の伸び悩みと仕事・家事の時間制約や実施意欲などの低減しにくい阻害要因の存在 <ul style="list-style-type: none"> ・成人の週1回以上実施率 50.2% (cf. 国の目標 65%程度) ・30～40歳代の実施率が低い ※いわき市民は運動不足からも生活習慣病が多く (Ⅱ型糖尿病が全国最大)、特に急性心筋梗塞や脳梗塞で死亡する方が全国平均より高い ○子どものスポーツの好き嫌いの二極化や生活習慣の変化、全国水準を下回っている子どもの体力・運動能力 <ul style="list-style-type: none"> ・小学生体力全国100比 男子93.7 女子96.2 ・中学生体力全国100比 男子92.5 女子93.1 ・スポ少団体数 172団体(H22)→135団体(R1) ・中学校運動部活動部員数 7,642人(H27)→6,634人(R1) ○市民のスポーツボランティアへの関心・参加意欲と参加率の低い状態での伸び悩み <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツボランティア活動をした市民 5.6%(H22)→6.1%(R1) <p>スポーツ団体・事業者の活動の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総合型地域スポーツクラブの市民の認知度と会員数の伸び悩み 会員数 876人(H29)→817人(R1) ○指導者の総数や専門的な知識を持った指導者の不足と団体役員や指導者の高齢化 ○スポーツや健康の学術研究機関である東日本国際大学や医療創生大学の存在 ○いわきFCの誕生・躍進 ○日本パラサイクリング連盟の本部移転 <p>スポーツ施設の現状・利用実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校開放も含めて施設数は満たされているが、市域が広いと、施設の利便性が低い地区が存在するとともに、マイカー移動に依存するため駐車スペースが不足している施設がみられる ○老朽化している施設が多く、空調設備や音響設備なども含めて、安全性や快適性を確保すべき施設がみられる ○施設のバリアフリー化を進めているが、高齢者や障がい者、女性、外国人などの利用に配慮した施設が十分ではない ○いわき新舞子ヴィレッジの整備 ○サイクリングルート「いわき七浜海道」(今年度完了予定)とサイクルステーション(市内6箇所)の整備 ○多くの施設が災害時の避難所に指定されている <p>スポーツ大会・合宿・イベントの開催状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○東北の中でも温暖な気候に恵まれていることを大会や合宿・イベントの誘致に活かしきれていない ○大会・合宿・イベントを毎月開催: スポーツコミッション関連事業件数 16件(H27)→22件(R1) ○地域活性化や風評被害の払拭など、大会・合宿・イベントの地域への効果の波及が十分ではない ○いわきサンシャインマラソンの評価が年々高まり東北を代表する市民マラソンに成長している <p>東京2020大会・ラグビーワールドカップ2019日本大会関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サモア独立国を相手国とした東京2020大会のホストタウン登録 ○ラグビーワールドカップ2019日本大会に出場したサモア独立国ラグビー代表チームが本市で事前キャンプを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもから高齢者までのライフステージや多様なライフスタイルの市民が参加しやすいスポーツ参加の機会の提供が必要 生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現できるように子どもの頃から資質・能力を育成することが必要 疾病・介護予防や健康寿命の延伸する健康づくりに結びつくような運動・スポーツの機会の提供が必要 時間制約などがあるビジネスパーソンや女性などが気軽に参加しやすいスポーツ参加のきっかけづくりが必要 障がい者がスポーツに親しめる機会の創出及び施設の整備と健常者と障がい者が一緒に参加できるスポーツの推進が必要 市街地と中山間地域の違いなど、地域の人口特性やスポーツ施設の実態に適した運動・スポーツの展開が必要 学校を含むスポーツ施設の安全性・快適性・利便性の向上と学校開放や既存施設の有効活用が必要 市民へのスポーツを「する」「みる」「ささえる」機会の情報提供の充実が必要 学校体育やスポーツ団体活動の個々の運営体制や指導者体制の充実・育成と組織相互の連携・協力が必要 本市の温暖な気候などの自然環境や地域資源を活かしたスポーツ大会・合宿・イベントの誘致の促進が必要 地域効果の高いスポーツ大会・合宿・イベントの誘致とその効果を地域に波及させる仕組みが必要 両大会を本市の復興・創生に向けた好機と捉えレガシー(有形・無形の承継すべき価値ある遺産)の創出が必要

第3章 計画の基本方針と目標（案）

